

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	藪刈り森林整備×エコツーリズム×環境教育のコラボイベントの開催 ＝藪刈り集団＋若いパパママ＋子どもたちをつなげる		
事業主体 (連絡先)	軽井沢国有林藪刈り実行委員会		
事業区分	(5)環境保全、景観形成に関する事業		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	387,203 円	(うち支援金：)	309,000 円)

事業内容

本事業は、平成19年度より続いている町内小学校通学路裏の約25ヘクタールに及ぶ国有林の整備活動の一環である。活動場所は、国有林が住宅地まで特異にせり出している場所で、しかも春から秋にかけてツキノワグマの目撃情報が多い。そこで、生い茂った藪が道路際まで掛かっているのを片付け、野生動物と人間のバッタリ遭遇を回避するために見通しの良い緩衝帯を整備してきた。また、道路際の林縁部だけでなく、いざ現地にクマが潜んだ場合にも浅間山方面に追い払いしやすいよう、林の内部にも幅の広い緩衝帯を整備している。

①9月1日(日)の藪刈り行事

12年前に襲来した台風により、林内で最も倒木がひどく、その結果、藪も凄まじく荒れていた場所を積年の思いをもって整備した。参加者は約120人、7つの班に分かれて予定した面積以上に幅広く整備できた。

(上段2枚の写真は、集合写真と整備活動の様子)

②11月4日(月・祝)の環境教育・森林体験行事

12年間の森林整備を通じて、林内は、環境教育やエコツーリズムの拠点として魅力的な森に変化している。樹種も多く、また地形の起伏に富んでいるため、散策していて発見できる素材も多い。そこで、今年度から、①のような重労働の行事だけでなく、女性や子どもが森林に親しむ体験行事を開催することとした。

当初の開催予定は10月14日(月・祝)であったが、不運にも台風19号の襲来により日程を延期することとなった。参加者数は減ってしまったが、林内の動植物に対するガイド説明、丸太切り体験(のこぎりを子どもたちに使用させた)、ネイチャーゲーム、豚汁の振る舞い等を行い、参加者が全員大満足の笑顔で過ごしてくれることとなった。(下段2枚は、ウリハダカエデの黄葉の説明と子どもたちの丸太切り作業の様子)



事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①野生動物と人間のバッタリ遭遇を防ぐための緩衝帯を整備する

9月の行事では、幅10メートル、長さ500メートルほどの大きな緩衝帯を整備することに成功した。最も倒木が多く、足下が悪い場所であったが、長年の経験で作業の段取りも上手くつながり、また晴天に恵まれて参加者がやる気をもって作業してくれた。

②官と民、都市と農村、専門家と一般住民、世代を超えた協働と交流の場を作る

例年通り、各班に地元住民、大学生、行政職員、町内ボランティアなど年代や性別もバラバラな人々が入り、午前・午後の活動を通じてすっかり打ち解けた。終了後の懇親会も60人で賑やかであった。

③親子連れをはじめとする参加者に森林体験の楽しさを味わってもらう

11月のイベントでは、植物の特徴などを実際に手に取って見ることができた。また丸太切り体験では、小学生以上の子どもたちがのこぎりを持ったが、全員が安全に作業し、お昼時ものこぎりを使いたいと言われて実行委員が指導に回るほど熱中してくれた。

④豊かな自然環境を整備していくことの意義を町内外に伝える

藪刈り行事も森林体験行事も、終了後参加者が満面の笑顔で「大勢でやるとすごく楽しかった」「こんなに見通しが良くなるなんて驚いた」「森の中を久々に歩いて、こんなに楽しいとは思わなかった」と感想を伝えてくれた。また11月の森林体験行事に参加した若い母親が、「これまで藪刈り行事をやっていたのは知っていたけれど、整備をした森で、こんなに楽しませてもらえるなんて、来年から、そちらの作業も参加したいです」と話してくれた。12年間の整備活動の意義を、実行委員会自らも強く実感することができた。

【目標・ねらい】

- ①野生動物と人間のバッタリ遭遇を防ぐための緩衝帯を整備する
- ②官と民、都市と農村、専門家と一般住民、世代を超えた協働と交流の場を作る
- ③親子連れ等の参加者に森林体験の楽しさを味わってもらう
- ④豊かな自然環境を整備していくことの意義を町内外に伝える

※自己評価【A】

【理由】

藪刈り行事も、森林体験行事も、いずれも終了後の閉会式で参加者が満面の笑顔であり、「参加してよかった」「来年以降も参加したい」と口々に感想を披露してくれた。森林整備の作業の楽しさと整備された景観の美しさや意義を伝えることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

例年通りの林縁部・林内の緩衝帯整備については、安定した行事として今後とも継続していく。これは、倒木処理以上に、整備した広大な面積の下草刈りを毎年続けていく必要があるという意味で、実行委員会としての組織を安定的に運営していく。

そして、森林体験行事を成功させたことで、今後は、春夏秋冬それぞれ異なる風景であることを前提に、季節ごとの環境教育プログラムを構築していく。実行委員会のメンバーがそれぞれ現地で得意とするガイドや技術を習得し、さらには地元の企業や宿泊施設と連携し、観光客にも楽しんでもらえるプログラムを考案していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある